

## 薬剤師



## 病院薬剤師の仕事を知っていますか

薬剤部長 河合 良智

皆さんは「薬剤師」という仕事にどのようなイメージを持たれていますか？

『病院や町の薬局で働く少し堅そうな白衣の女性・男性』、『お薬の専門家』、『医師の処方せんに従い、錠剤や粉薬、水薬を調剤し、窓口で患者さんに内容について説明し、渡してくれる人』、薬剤師のイメージと言われて想像するのは、おおよそはその様なところではないでしょうか。

そのイメージは当たっている部分と、そうでない部分があります。前述した「調剤業務」が薬剤師の仕事の基本であるのは従来と変わりありませんが、ここ十年で病院に勤務する薬剤師の仕事は大きく変化し、その分野を広げているからです。

中部ろうさい病院においても同じです。病院に勤務する薬剤師は近年、職責のひとつである「適正な薬物療法の支援」を実践するため、調剤室にとどまらず、ICUを含む病棟や外来診察室、手術室、救急室に至るまで「くすりのあるところに薬剤師」をモットーに、チーム医療の一員として活躍

の場を広げています。患者さんのベッドサイドへ出向き、服薬指導や副作用・効果の確認をする、いわゆる「薬剤管理指導」による薬剤師ケアを経験された方もいらっしゃるでしょう。

現在、医療の現場は需要が高度化し、また医療そのものも高度化し、薬物療法においても医師や看護師だけでは十分に対応できなくなってきました。これを受け、当院では2016年10月から「病棟薬剤業務」と言った、薬剤師が病棟常駐し、医師や看護師と共に薬物療法の支援を行う新しいシステムの運用開始も予定されています。これにより、当院で治療を受けられる患者さんへ一層安全で安心な薬物療法を提供できるものと考えています。

今後、地域包括ケアの推進と共に、病院を超えて薬剤師の役割はますます広がるでしょう。堅いイメージも変わるかもしれません。中部ろうさい病院では、薬剤師が医師・看護師・他の医療スタッフと一丸となり、働く方々や地域の皆さんに最善の医療を提供していきます。